



2016-2017年度 主題

国際会長 : Joan Wilson "Our Future Begins Today"
 「我々の未来は、今日から始まる」
 アジア会長 : Tung Ming Hsiao "Respect Y's Movement"
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事 : 利根川恵子 「明日に向かって、今日働こう」
 湘南・沖縄部長 : 若木一美 「あなたが退会しない理由は？」
 ~明るく・楽しく・元氣よく~
 クラブ会長 : 林 茂博 「仲良く、楽しく、無理をせず」
 ~今日という日を大切に~



今月の聖句

「見よ、わたしの選んだ僕。
 わたしの心に適った愛する者。
 正義を勝利に導くまで、／彼は
 傷ついた葦を折らず、
 ／くすぶる灯心を消さない。」
 (マタイ福音書12:18, 20)

《巻頭言》

クラブ会長 林 茂博

「後ろのものを忘れ、前に向かって」

左肺の半分を切除してから、2か月経過しました。手術前は、2か月経過すれば、身体の状態は術前の状態に復帰できると安易に考えていましたが、なかなか自分の思う通りにはいかないものと実感しています。私たちは、普段無意識に呼吸をし、呼気と吸気を意識することは、あまりありません。呼吸を意識して行うのは、レントゲンを撮るときに「大きく息を吸って。はい、とめてください」といわれる時くらいしかないのではありませんか。それは、脳幹の呼吸中枢によって呼気と吸気が自動的に制御されてバランスしており、必要とする酸素が血中に取り込まれ、不要な二酸化炭素を体外に排出しているからだそうです。

ところが私の場合は、肺切除で肺活量が減り、血中に取り込まれる酸素量の減少に見合う運動量なら、バランスして問題は発生しないのですが、意識が変わらずに、術前と同様に振舞うので歪が発生しているようです。過去の状態に固執して、新しい環境を受容しにくくなるのは、老化現象の特徴かもしれません。後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けるポジティブライフに切り替えなければならないと痛感しています。

肺癌で肺の一部を切除したリハビリに使用される器具は、呼気ではなく、吸気を鍛えるものです。新しい空気を体内に取り込むことの大切さを学びました。

ワイズを取り巻く環境も、クラブ設立当時とは大きく変化しています。「同じことを継続していればよし」というクラブであれば、衰退せざるを得ないと思います。たとえメンバーの高齢化が進もうとも、環境の変化・ニーズの多様化を受けとめた、新しい活動が展開されれば、クラブは活性化して行きます。『たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。』という聖書の言葉に励まされて、「今日という日を大切に」クラブライフを楽しんで行きましょう。(完)

2017年3月本例会

日時:2017年3月24日 18:30~
 場所:かけはし都筑
 受付:(報告書) 三木
 司会:岡田勝美
 プログラム
 開会点鐘 林 茂博会長
 ワイズソング・信条 一同
 今月の聖句 相賀牧師
 ゲスト・ビジター紹介 司会者
 会長挨拶 林 茂博会長
 入会式 胡麻尻 眞佐さん
 立ち合い 若木湘南・沖縄部長
 卓話

「東本郷での1年」

東本郷ケアプラザ館長 瀬谷智明さん
 YMCA報告 山中担当主事
 お誕生日
 3月22日 相賀 昇さん
 3月31日 辻 孝子さん
 各種アピール

閉会点鐘 林 茂博会長

~~~~~  
 閉会后、若木部長・胡麻尻さんを囲んで会食・懇親会を「ガブリエル」で行いますので、ご参加ください。

(前月のデータ)

| 例会出席  | 26名 | 在籍会員数    | 20名 | 各種記録  | 前月   | 累計      |
|-------|-----|----------|-----|-------|------|---------|
| メンバー  | 14名 | 月間出席数    | 18名 | 使用済切手 | 0g   | 60g     |
| パートナー | —   | メーカーキャップ | 4名  | プルタブ  | 11kg | 24.4kg  |
| ゲスト   | 12名 | 月間出席率    | 90% | スマイル  | 0円   | 80,692円 |

## 《クラブ活動紹介》

## What is TKB?

つづきクラブの活動エネルギーの源と言っても過言ではない”TKB”、即ちTsunami Kawaii Bachansの見える活動として上げられるのが、東日本大震災被災地支援活動として行っているお誕生日カード作りです。現在、福島県南相馬市の原町教会付属「原町聖愛こども園」と宮城県山元町の「山元町立つばめの杜保育所」のこども達一人ひとりに、毎月手作りのお誕生日カードを送っています。林理子ワイズの指導の下、季節に合ったお花やおひな様などを折紙でおり。カードに貼り付けていきます。名前を見ながら「どんなお子さんかしら・・・」と想像しつつ、これからの一年が神様に守られますよう祈ります。こども園からは折々の園の行事や可愛い子どもたちの日常などお便りが届き、その様子に”Bachans”は嬉しくて幸せな気持ちになります。小さな折紙を四苦八苦しながら折ることは手先と頭の運動(コグニサイズ?!)、認知症予防になっているかも・・・? 作り終わると、会場を提供して下さっている岡

崎ワイズによる美味しいスープでランチ+おしゃべりのひと時を楽しんでいます。除染が進んだとはいえ、まだ何かと制限もある中で頑張っているこども達への便りはこれからも続けていこうと決心しています。(今城H 記)



## 《報告》

## 横浜北YMCA/横浜つづきワイズメン&amp;ウィメンズクラブ交流会

2017年2月24日(金)菊名・敦煌において2月例会および横浜北YMCAスタッフ交流会を実施しました。

18:30からは例会を実施、YMCA三浦ふれあいの村所長の森田義彦さんにお越しいただき「YMCAとキャンプ」という題目で卓話をいただきました。関東大震災時復興のためのキャンプであったり、核家族のための関係性を作るためであったりとその時代の課題に合わせたキャンプが行われていました。今は子どもたち同士のコミュニケーション力を育むためのキャンプになってきています。時代に必要とされるキャンプがその時代時代にあわせて行われていることを理解することができました。私たちには富士山YMCAというすばらしいキャンプ場があります。2017年5月には10周年を迎えます。より多くの皆様に使っていただくよう設備の拡張も行います。皆様への募金のお願いもさせていただきます。今後ともよろしくお願ひいたします。

19:30からは横浜北YMCAのスタッフが合流し、食事会を行いました。今年1年目のスタッフが多く、YMCAまつり以外なかなかお会いできない方々が多くいます。若いスタッフの中にはワイズの皆さんの働きを知るいい機会になっています。私たちの活動が多くの皆さんに支えられていることを知る機会になったと思います。

最後にワイズの皆様から国際協力募金・Bapy基金・富士山募金にご協力を頂きました。私たちの活動の一番の理解者であり、支えてくださるワイズの皆様に感謝するとともにこれからも共に歩んでいけるようお願いいたします。

横浜北YMCA 館長 山中奈子(つづきクラブ)



## 《報告》 2016-17年度前期缶ぺん報告

当クラブ林会長の提案で今期から始めた「缶ぺん」とは、メンバー各自に配られた貯金箱(缶)にコインを貯めて、半年後に持ち寄り、クラブ活動費や献金に活用しようというもので、第一回の「開缶式」が2月の事務例会の際に行なわれました。開缶して回収したコイン(一部は札)を銀行に持ち込み、計算してもらったところ72,789円に達し、早速クラブの口座に振り込まれました。クラブメンバーに想定する金額を投票してもらったところ、参加した12名の内、実際の金額を上回った人は僅か2名で、メンバー大半の想定を上回る金額が集まったということになりました。金額当て投票の「ニアレスト賞」は2,211円オーバーの鈴木茂ワイズで、「さすが元銀行員」といったところでしょうか。鈴木ワイズには、編集部より、ダイソーで調達した豪華賞品が授与されました。メンバーには林会長より、早速年度後半用の缶が配られたのは申すまでもありません。(TI記)



(左)当日はTOF例会で、恒例のおにぎりとお汁がメニューの会食を行いました。

(右上4枚)メンバーが持ち寄った缶を開けて、コインを袋に詰め込みました。半年の思いが込められてずっしりと重い袋。



(右下)プルタブ回収活動も徐々に収束することが当日の例会で決まりました。

## 横浜北YMCA 報告 館長 山中奈子

横浜北YMCAで運営委託している鶴見区寄り添い型学習支援は現在104名の中学生が登録しています。その中で中学3年生が36名います。3月2日に神奈川県公立高校の合格発表がありました。36名中公立(全日制)15人、公立(定時制)8人、私立8人、特別支援学校1人の進学が決まりました。まだ4人の進学・就職先が決まっていません。これから2次募集などに挑戦をしていきます。「桜咲く春」に向かって私たちも努力していきます。

春は旅立ちの季節でもあります。北YMCAで共に働きをしてきたスタッフが3月末をもって、他YMCAへの異動する人がいます。これまでの働きに感謝するとともに、新しい環境での働きに神様の豊かなお導きがあることを祈りたいと思います。

### ★他Yへの異動者

山田有理紗(厚木Y)、田中晴菜(中央Y)

### ★部門異動者

前橋あかね(北Y健康教育→北Yカルタライブ)

### ★兼務者

尾原萌子(ワークサポートセンター設立準備室)

### 《4月行事予定》

- 4月 1日 横浜YMCA入会始業式
- 4月 6日 北YMCAクラス開始
- 4月29日 ヘルシーキッズキャンペーン



### 3月事務例会報告

(岡田美和記)

日時:3月14日(火)18:00~19:45

場所:田園都筑教会

出席者:

メンバー:今城T・H、岡崎、岡田K・M、久保、  
鈴木S・K、辻Ts、林S・M、福島、横田  
ゲスト 高松満至、胡麻尻眞佐

◇ 開会・黙祷

◇ 会長挨拶

◇ 協議事項

1) 次年度ロースターについて

訂正事項を確認し、例年通り家族で一冊と西日本  
区版一冊をクラブ負担で購入する。

2) 社協関係担当者について

ボランティア・市民活動分科会委員、災ボラネット  
運営委員の林S、林M両氏退任のため、次年の担  
当者を決める必要がある。早急に人選を行う。

3) 3月本例会:

① 入会式には若木湘南・沖縄部長立ち合いの予  
定。

厚木クラブ佐藤節子さんも参加予定。

② 卓話は瀬谷智明さんによる「東本郷での1年」

③ 司会:岡田K、受付:三木 (マーシャル担当)

4) 4月本例会

卓話:長和義雄さん。

ビジター:東京山手クラブ浅羽俊一郎さん

司会:岡崎 受付報告:鈴木S (マーシャル担当)

5) 5月本例会

富士山YMCAでの1泊例会。

6) 行事確認・連絡・報告

・東日本区大会(川越) 6/3~6/4

・西日本区大会(熊本) 6/10~6/11

・アジア・太平洋地域大会(タイ)7/21~7/23  
(参加予定 鈴木S、辻Ts)

7) 報告と予定

・3/4~3/5 次期会長研修会に、今城H、今城T、鈴  
木Sが参加した。

・3/7 Y-Y's協議会 参加者 林S、今城T・H

・3/11 災ボラセンター運営シミュレーション 横田

・3/14 事務例会

・3/18 北YMCA運営委員会

・3/24 本例会 TKB活動(14:00~)

・3/25 みんなの家 感謝の集い・作品展  
(参加予定:今城H、鈴木K)

・3/25 鎌倉クラブ25周年(鎌倉市福祉センター)  
(参加予定:今城T、岡田K・M、久保、  
鈴木S、辻Ts、林S・M、横田)

・4/1 部則検討委員会 湘南とつかY(部役員・会長  
が出席)

・4/11 事務例会

・4/14 横浜YMCA熊本・東北復興応援ナイター  
(3000円)

・4/23 横浜北YMCA創立40周年記念会

・4/28 本例会

◇ CS活動の確認・連絡

傾聴ボラ、調理ボラ、送迎ボラ

◇ 連絡報告事項

・プルタブ収集は暫時収束。協力者への断り状を  
作成・発信する。

・ボランティア活動保険更新について  
例年通りクラブ負担で全員更新した。

※閉会後は「一心」にて会食・懇親を楽しみました。

### 第76回YMCA-Y's 協議会報告

(今城 宏子記)

日時:2017. 3. 7(火)19:00~20:30

@横浜中央YMCA 501号室にて

開会礼拝(讃21:18番、聖書:ローマの信徒への手紙5  
章3~4 祈祷)に続き高橋徳美金沢八景クラブ会長の  
司会により開会、田口努横浜YMCA総主事および若  
木一美湘南・沖縄部部長の挨拶に続き協議・報告が  
なされた。

<協議事項> 田口総主事から2017年度全体事業方  
針・計画が示された。①「横浜YMCA—私たちの使命」  
を日々の働きの中で具体的に実践していくことを通  
し、共に支えあう平和な世界の実現に努める。②横浜  
YMCAのリソースを生かし、さらに専門性を持つ諸団  
体との連携や事業協働を進め新たな事業の価値を見  
出し社会に発信するブランディングを推進する。③横  
浜YMCAのすべての館と施設が地域の人々や団体と  
繋がりを育み地域に必要とされる活動を展開し認め合

い高めあうコミュニティの形成を推進する。其々につ  
いて説明がなされた。

<報告事項>

1. 横浜YMCA:各担当主事

会員大会、チャリティーゴルフ、国際・地域協力募金  
(東日本大震災復興支援を含む)、YMCAブランディ  
ング・プロジェクトについて

2. ワイズメンズクラブ:若木部長

ワイズ湘南・沖縄部合同新年会、部長沖縄公式訪  
問、第2回部評議会、東西ワイズメンズクラブ交流  
会、部則見直しについて

・各クラブ報告:各クラブ会長

3. その他

①アジア大会のお知らせ ②3/10、3/11 東日本  
大震災追悼の各行事

③4/14 熊本・東北復興支援ナイターのお誘い

《特別寄稿》

ワインに思う蘊蓄

横田 孝久



何か事あるときに、酒が登場します。日本式の結婚式では新郎新婦は三々九度で誓いを、家の新築では棟上式に、正月にはお屠蘇で

新年を祝います。何か事があれば必ず酒が必要になってきます。ファミケーションなんていうこともありました。また、たまには薬として重宝する事もあります。人間はどうしてこれほど酒と交わるのでしょうか。

また、酒には多くの種類があり、国や人種によって異なるため、その数は数えきれません。しかし、小生疑問に思うに、そんな中、どうしてワインはいろいろ講釈というのか、語りが多いのだろうかということ。

酒の席でのひとときは、ビールであれウイスキーであれ日本酒であれ、人は飲むほどに舌は軽やかになり、失恋や失敗などの苦い酒以外はくつろぎのひとときだと思えます。

日本でも、万葉の時代から酒に関する歌や詩などが語り継がれていますが、ワインほどワインそのものについて、また飲む人間についての語りが多い酒はないでしょう。何故、数ある酒の中でワインについて語られる事が多いのか、きつと、世界中で一番沢山飲まれている酒だからでしょうか。

単に飲んだ人の心を酔わせるだけでなく、人をしてみずからのことや、ワインについて語らしめてしまう酒がワインだと思う。それを人は蘊蓄と言ひ、ときにそのような知識は良くも悪しくも羨望されることになります。

ワインを味わいたいと思つていても、知識がないと近づけないよう、飲んだら飲んだら蘊蓄のめんどくささがあつて、遠ざけている人もいます。その様な現象をある人はスノビズム(紳士気取り)が発生すると講釈しますが、逆にじつはワインが本来に多様な個性を備えているからにほかならないからだと思います。

たとえば、ここに、近くのスーパーで買った安い(1000円位)ワインとワインショップで買った手頃なブルゴーニュワイン(2000円〜3000円位)とがあると思います。それをワインをあまり知らない人に飲んでもらうと、普通の味覚の持ち主なら100人中95〜99人位は両者の味の違いに気づき、というか驚いてワインの味ってこんなに違うんだと思うはずです。でも、どうしてこんなに違うんだ」となると、ワインに親しんでいる先の人は、それはね・・・となり、そこから既にワインについて語つてしまつて居るのです。

さらに、進んで産地や年代の異なるワインを飲んではずきりと味の違いが分かれば、それから先はワインの、さりこになることになります。

ただ、一言断りますが、先ほど1000円位が安いと言いましたが、けつしてそうではなく、たとえばフランスあたりでは1000円もだせば、かなりいけるワインを見つけれられるし、日本では特別かもしれないが、フランスや他の外国では通常水

の代わりに食事の伴侶として飲むので安くてそれなりに美味しいワインに出会えます。

以前、ブリテンに投稿して述べましたが、日本で普通のフレンチレストランやイタリアンレストランでは、コース料理は魚と肉の一品を選ぶか両方選ぶかの違いはあれ、どの店も似たり寄つたりで5000円〜1万円くらいが相場で、そこにワインを選ぶとなるとピンキリでそれこそ天上が無くなるくらい高くなる事もあります。そして、必ずしも高ければ高いワインほど旨いとは限らないことを言いたいです。

その日その時そして仲間どうしか仕事(接待なのか、家族なのかなど、どんな輪なのか)によつて、美味しくも不味くもなります。したがつて、その場に居られる事を感じて、あーだ・こーだといわいやれば、少々お安いワインでも最高のワインになることを体験してください。それを皆である時のワインは、今日のワインはこんな感じと語りあえば他の酒とはちよつと異なることがわかると手前みそですが思ひます。

それがワイン談義であつて蘊蓄とは少し違うのです。お後がよろしいようですので、先の蘊蓄はまたの機会にして、さあー飲みに行きましよう。イエス・キリストの恵みに感謝しつづ。



《講演会出席報告》

2017年2月18日 @横浜YMCA

YMCAでは、いじめのない社会を目指すいじめ反対運動「ピンクシャツデー」に取り組んでいます。

いじめのない社会をめざす「ピンクシャツデー」が各地で展開され、北YMCAではNPO法人アーモンドコミュニティ代表の水谷裕子先生による講演会を企画し実施しました。

「子どもたちのいじめを見逃さないために～傾聴から学ぶ～」と題して勉強しました。

講演では、こころを聴く、関係性、居場所、地域社会、貧乏と貧困等を解り易く講義をされ、人を支えること、その人の存在を認め、「ありのままに居る」ことを認めること、言葉と行動が支えとなること、特に現代の社会の多様性をふまえ相手が主役のコミュニケーションをとつて諸々のおもいに気づくことが大切とのことでした。つづきクラブからは、岡田M、久保、鈴木K、林H・M、山中館長、横田が参加しました。

(横田 孝久記)

**《報告》 2016-2017年度 次期会長・部役員研修会 参加報告**

当クラブより、今城宏子(次期会長)、鈴木茂(次期会計)今城高之(次期書記・部ユース事業主査)が参加し、初日の状況を今城Tが、二日目を鈴木Sが報告します。

《研修会1日目》 研修会は、各自登録を済ませて13:00より、新装なった日本YMCA同盟東山荘の講堂にて開催されました。開会式に引き続き、研修Ⅰとして、東日本区利根川理事により、東日本区、アジア太平洋エリア、国際のそれぞれの現状報告があった。

区では、今期開始時の会員数が908名(61クラブ)であったのが、本年1月1日時点で917名(61クラブ)と漸増で年度末には更なる会員増が見込まれる。その他、特記すべき区の活動として区定款の改訂作業、東日本区20周年記念事業実行委員会の設置、e-ラーニングの導入検討などが上げられた。

アジア太平洋地域並びに国際では、昨年2月1日現在の全世界の会員数は26,476名で前年同期比0.6%減(166名)との報告があった、また、国際献金の区別貢献度では、1位:デンマーク、2位:西日本区、3位:韓国4位:ノルウェー、5位:東日本区との報告があった。

次いで、同盟光永 尚生 東日本区連絡主事より「YMCA理解」についてのスピーチがあった。それによると、現在の日本のYMCAは35の加盟YMCAと37の学生YMCAで構成されており、全国の都市YMCAの会館数は211カ所、会員総数は137,901名。常勤職員・教員数は2,689名、役員・委員数は2,959名、ユースボランティア数は8,364名に上っている。

なお、様々なYMCAの活動の実現では「思いやり」「誠実さ」「尊敬心」「責任感」が大切にされていることが述べられた。

次に、2017-2018年度東日本区理事 栗本 治郎氏(熱海クラブ)より、次年度の方針が述べられた。

- ◆理事主題 「広げよう ワイズの仲間」
- ◆スローガン「楽しくなければワイズじゃない 積極参加

で実りある奉仕」を掲げ、部の強化・活性化とYMCAとの協働を基本方針に区の運営を行う。特に、会員増強には力を注ぎ、事業としては、部に「エクステンション委員会」(複数年で取り組む体制)を設置するとの方針が述べられた。

《各事業の方針》～主な活動方針～

- 1) 地域奉仕事業:災害支援活動の継続とCS活動の地域への周知徹底。
- 2) 会員増強事業:クラブの現状を見据え、強みと弱みを把握し「新しいアプローチ」を検討する。
- 3) 国際・交流事業:国際献金の使途に関する理解促進と強調月間の活用。
- 4) ユース事業:ユース事業を通じて区の方針実現とYMCAとの協働強化。

研修Ⅱとして、パネルディスカッション『広げようワイズの仲間』が開催され、各パネラーにより、EMC活動の進め方、活動の困難さ等々につき発言があった。

研修Ⅲでは、参加者を4つにグループ分けしての事業ごとの説明があった。時間が十分ではなく、突っ込んだ議論はできなかったが、何れのクラブも同様の問題、特に会員増強では深刻な問題を抱えていることが浮き彫りとなった。

《夕食懇談会》初日の最後は、約100名の参加者、10のテーブルにランダムに分かれて着席しての夕食会と懇談会が行われた。食事中、テーブルごとにワイズ活性化をテーマとした話し合いがもたれ、最後に各テーブル夫々の代表が懇談の概要を報告した。

<筆者は、日帰りの予定であったため、このあたりで退席し帰路に就いた>

今城高之 記



(次期区役員の紹介)



(研修Ⅲ グループ分け事業方針説明)

《研修会 2日目》プログラムは、am6:00~7:00に設定された「早朝ウォーキング」から開始された。私はこれまで、前夜の「部長を囲む懇談会」で夜更かしばかりして、定刻に起床できなかったため、今回は少し早めに懇談会を切り上げ（それでもpm12:00近く）、翌朝に備えた。

「早朝ウォーキング」には30人程が参加し、東山荘周辺を散策した。天候にも恵まれ、冠雪した富士山が朝日に映えて輝く「紅富士」の真じかの姿は圧巻であった。朝食の後に持たれた日曜礼拝では、川越クラブの山本剛史郎ワイズによる「地の塩・世の光」と題する力強い奨励があった。

8:50から開催された研修会IVでは、利根川理事による「東日本区定款改定について」の現状説明のほか、「部事業主査の役割」、「部書記・会計の役割」、「事務手続きのポイント」、「会計について」、「メネットについて」、「ロースターの校正・発注について」などに関して、それぞれの担当者から説明と注意事項の指摘などがあった。

次いで10:00から1時間半にわたって、「会長・部長・部役員」と「事業主任・事業主査」の2グループに分かれた会議が設けられ、自己紹介や質疑応答が行われた。さらに研修Vとして、利根川理事から「eラーニングについて」、大久保ITアドバイザーから「IT利用による情報伝達について」と題する説明と解説があった。最後に恒例の「ワイズクイズの解答発表」を経て、駒田勝彦・監事より、2日間を通して有意義な研修が行われ、参加者より積極的な発言、問題提起がなされたことは、大きな成果であったとの講評があった。

今回の「次期会長・部役員研修会」は、栗本次郎・次期東日本区理事の「広げよう ワイズの仲間」(Extension Membership & Conservation)という理事主題に応じて、総じて「会員増強をいかに実現するか」が研修会全体を通しての大きなテーマとなっていた。これはワイズメンズクラブにとって永遠の課題でもあり、参加者の多くが妙案・妙策を考えあぐねている雰囲気であった。



(初日の会食・懇談会)

## 《ご紹介》

この度、辻 剛ワイズのご紹介で、我がクラブに入会されることになった胡麻尻 眞佐さんより自己紹介の文章とお写真が寄せられました。久しぶりにお迎えする新メンバーを心より歓迎いたします。

私は、胡麻尻 眞佐と申します。

この度、3月24日の本例会で横浜つづきクラブに入会させていただくことになりました。どうぞよろしくお願い致します。



私とつづきクラブのご縁ですが、ある日、私がバスを待っていたらご近所の辻さんと偶然お会いしました。

ワイズメンズクラブの会議に出掛けるとのことでした。そのとき、もしよかったら例会に顔を出してみてもとお誘いを受けました。その後、立て続けてお誘いを受け事務例会に出席したり、横浜YMCAの会員大会に参加したりしました。神戸出身の方を含めメンバーの皆さんが大変優しく親切に接してくださるので、お仲間に入れて頂く気持ちになりました。

私と夫は共に、神戸生まれの神戸育ち、夫の転勤に伴い、関東に移り住んで、40年になります。3年前、夫を亡くしました。ちょうどそのころから眼の難病といわれる加齢性黄斑変性症に罹り、一挙に視力が悪くなり、クルマの運転も断念、読書もできなくな

りました。現在は、毎月受診し、注射治療を受けています。IPS細胞に依る治療が、現在試行中で数年先には、といわれていますが・・・。また、両足とも人工股関節置換手術を行い、いろんな意味で今は皆さんの助けを受けている状態です。昔は、ボランティア活動に参加した事もありますが、今はこんな状態ですので皆さまの活動に参加できるかしらと、不安に思っております。辻さんからは、できる範囲内で出来ることをやればよいのであって、最低月1回の本例会に出席するだけでも充分です、と言われ、少し安心した次第です。趣味は、油絵を今でも描いています。身近な題材から南フランス、スイスなどでも沢山描きました。去年は東山田ケアプラザをお借りしてささやかな個展を開きました。料理や、お菓子作りも好きです。

このような趣味を生かして多少でも奉仕活動のお手伝いが出来ればと願っています。

以上

## 沖縄公式訪問参加報告

鈴木 茂

日程 : 2017年2月18日(土) ~ 19日(日)

・沖縄クラブ例会 (16:30~17:50) : ダイワクロイネットホテル

・沖縄那覇クラブ例会 (18:30~20:30) 沖縄YMCA

参加者: 沖縄クラブ例会 32名(在浜クラブ7名、仙台青葉城クラブ1名、京都トゥービークラブ17名、京都パレスクラブ1名、沖縄クラブ9名)

沖縄那覇クラブ例会 18(在浜クラブ9名、仙台青葉城クラブ1名、沖縄那覇クラブ8名)

エクスカージョン: 福州園、対馬丸記念館、忠孝泡盛工場、門中墓具志川城跡、沖縄陸軍病院南風原壕群、沖縄外人墓地等を見学

今年度の沖縄2クラブ公式訪問は、2月18日(土)~19日(日)に実施され、若木一美部長を含む9名が参加した。ほかに、東日本区EMC事業主任の菊池弘生さん(仙台青葉城クラブ)が加わって下さった。初日最初のプログラムとして、私どもは沖縄クラブの例会に参加した。そこでは、沖縄クラブ-京都トゥービークラブのDBC締結に向けた確認書調印式が準備されており、京都から森田美都子・西日本区国際・交流事業主任ほか17名のメン・メネット・コメントさんが参加されていた。正式のDBC締結は、今年8月26日に予定されている京都トゥービークラブ20周年記念例会で調印されるということで、この日は「DBC締結確認書」という形の調印が両クラブ会長によって、厳粛に行われた。若木・湘南・沖縄部長、森田・西日本区国際・交流事業主任等のご挨拶・祝辞の後、沖縄クラブの次期会長・宮里伸一郎さんのご挨拶があった。例会の閉会点鐘に引き続いて懇親会が用意されていたが、私どもは沖縄那覇クラブの部長公式訪問例会に出席するために失礼した。



「那覇クラブ」の例会は18:30より開始され、閉会点鐘、ワイズソング、ワイズの信条に続いて、知念一郎沖縄YMCA理事長による奨励があった。この奨励の中で知念理事長は、通常の地図とは南北が上下逆に描かれた世界地図を私たち一人ひとりに配布して下さい、その南北逆の世界地図で見ると、アジアにおける沖縄に関する位置づけ感覚や地理観が一変するとのことをお話をされた。確かに、南極を上部に描いた地図でアジアを俯

瞰すると、沖縄は正に日本列島の玄関口に位置し、その昔、米国ペリー提督が浦賀に来航する以前に数回にわたり沖縄に立ち寄り、琉球王国・米国間で修好条約を締結していた事情が理解できる気がした。事程左様に、私たちは時にはまったく逆の発想、異なった視点から物事を見直す必要があることに気づかされた。

例会に引き続き懇親・交流会が開催され、「那覇ク



ブ」の大森節子さんが作って下さった恒例の美味しい沖縄料理を堪能させていただいた。懇親・交流会の席上、屋良政旦会長により、「ホウオウボク実鞘」を加工した美しい手作り工芸品のオークションが行われ、参加者の人気を博していた。私も2本購入した。

翌2日目のエクスカージョンは、「那覇クラブ」の呉屋



さん・屋良さんが親切に計画・段取りして下さいました見学コースに沿って、福州園、忠孝蔵・泡盛工場、具志川城跡、門中墓、沖縄外人墓地のペリー提督記念碑などの観光スポットを訪問したが、強く印象に残ったのは、対馬丸記念館、南風原陸軍病院壕など戦争の悲劇を改めて想起させる史跡である。対馬丸記念館には、学童集団疎開の沖縄の子どもたち千数百人を乗せた対馬丸が米潜水艦の魚雷攻撃により、乗船者の (次頁へ)



（前頁沖繩公式訪問参加報告続き）8割の生命が海底に消えた事件を記念して、犠牲者の遺影や遺品が展示されている。遺影の中に、「那覇クラブ」の呉屋さんの叔父さんに当たる方のお写真も含まれていた。

沖繩陸軍病院南風原壕群は、米軍の艦砲射撃が始まった戦争末期に建造された横穴地下壕であるが、私どもは各自ヘルメットを着用し、懐中電灯を持って壕内を見学した。現在の常識では、とても重症人の手術をするとか、病人を治療するに値する環境ではなかったことが察知された。

今回の部長公式訪問全体を振り返って、「那覇クラブ」の皆さんが何時もながら例会、懇親・交流会、エクスカージョンのすべてにわたり、細かく心遣いして下さったことに改めて感謝の思いを強くした。ただ、部長公式訪問に当たり「那覇クラブ」と「沖繩クラブ」との合同例会が開催されなかったこと、それぞれの例会に相手クラブからの参加がなかったことなどが残念であった。「那覇」と「沖繩」の両クラブが、沖繩YMCAを共に支え協力し、合同例会を開催することができるようになることを祈りたい。

以上

《特別寄稿》

先月号に認知症のチェック項目についての文章を掲載したところ、クラブメンバーより、更に詳細な「臨床」体験に基づく報告が寄せられました。他人事とは思えない、興味深い報告です。

（編集子）

「物忘れ外来」 辻 剛

時：2017年1月〇日

場所：都内某総合病院「物忘れ外来」

ドクター「今日はどうされましたか？」

患者「実は家内から最近物忘れが激しい。認知症の初期かも知れないから病院でチャント診察してもらいなさい、と度々言われ、自分ではそう思っていないのですが、半ば強制的に送り出されました。」

ドクター「最近、奥さんに言われて来院される方が結構増えています。でも、あなたは100%認知症ではありません。表情を見ればわかります。しかし、それでは奥さんが納得されないでしょうから簡単なテストをしましょう。いまから私がいくつか質問をしますからそれにこたえて下さい。それでは始めます。今日は何年何月何日？」

患者「2017年1月〇日です」

ドクター「何曜日？」

患者「〇曜日です」

ドクター「あなたは何歳ですか？」

患者「〇〇歳です」

ドクター「ここはどこですか？」

患者「〇〇病院です」

ドクター「住所は？」

患者「〇〇区〇〇です」

ドクター「東京は何地方？」

患者「関東地方です」

ドクター「5,3,2,1、同じ順番で繰り返して下さい」

患者「5,3,2,1」

ドクター「何でもよいですから、短い文章を書いてください」

患者「〇〇・・・・・・・・〇〇」

ドクター「100から順に7を引いてそれぞれの答えを数字で言ってください」

患者「93,86,79・・・2」

ドクター「(腕時計、スプーン、キー、鉛筆、歯ブラシ、の絵を見せて引込める) 順番は問わないので覚えているものを言ってください」

患者「腕時計、スプーン、キー、鉛筆、歯ブラシ」

ドクター「8,6,9,3、これを逆から言ってください」

患者「3,9,6,8」

ドクター「(5角形が重なっている図を見せて) 同じ図を描いてください」

患者「(おなじような図を描いた)」

ドクター「さくら、ねこ、電車、この単語を後でもう一度聞きますので答えてください」

患者「さくら、ねこ、電車」

ドクター「テストは以上です。判断基準は、明らかな能力ダウンが認められるか？あるいは、社会生活を送るうえで、問題や不自由があるか？です。このテストは、30点満点です。あなたは満点です。認知症の疑いがもたれるのは、23点以下です。従って、初めに言ったようにあなたは認知症の疑いはありません。」

患者「先生、どうもありがとうございました」

場所：(帰宅) 自宅の居間

患者「というわけで認知症の心配はないそうだ」

奥さん「おかしいわね。そんなはずないわよ！」

2017-18年度 湘南・沖縄部長方針

1. 部長主題  
「Y'sの絆を強め、広げよう」  
Let's Tighten and Expand the Bond of Y's Men
2. 活動方針
  - ・部はExtension、クラブは会員増強
  - ・YMCAと地域への奉仕活動強化のためクラブの結束強化
3. ワイズでー特別イベントの企画  
富士山YMCA10周年記念募金のためのチャリティーイベント
4. 活動重点目標
  - ・クラブの若がりりと体力強化
  - ・卓話の充実と楽しいクラブ作り
  - ・ワイズの諸行事への出席
  - ・YMCAとの協働プログラムの模索
  - ・ユース事業支援とY3との連携
5. 部行事
  - 部会 2017.9.16 (土)
  - 合同新年会 2018.1.14 (未確認)
  - 部役員会 10月 (予定)
  - 部評議会 年4回開催
  - 部報発行 年2回 (9月、6月)
  - 部長通信 年4回発行
  - Y-Y's協議会 年4回 (9・12・3・6)

※以上会長研修会ワークブックより

江戸のおもかげを残す  
**川越**






撮影 イメージ・フォトオフィス 島崎賢一

これまでの20年

# 温故知人

明日に向かって新しい出会いを

## ワイズメンズクラブ国際協会 第20回 東日本区大会

2017年6月3(土)・4(日)  
会場：ウエスタ川越

ホストクラブ：川越ワイズメンズクラブ  
協力クラブ：埼玉・所沢 各ワイズメンズクラブ  
後援：川越市  
川越商工会議所・(社)小江戸川越観光協会  
(公財)埼玉YMCA

**トピックス1** 去る2月25日、大和YMCAが行う輪和Waコンサートが開催され、当クラブからは鈴木S、岡田K・M、林M横田、今城Tが参加しました。我がクラブが参加する「You&Iコンサート」のお手本になったイベントで、今回で10回目を数えます。出演者は、声楽家(ソプラノ)、ヴァイオリン、ピアノ、コントラバスで構成されており、よく知った曲や、コントラバスのソロなど様々なでプログラムで、300名弱の来場者を楽しませてくれました。障がいのあることも達も参加してのトーンチャイムとの演奏(チューリップ)は、演奏したことも達、来場者も大喜びでした。(TI)

**トピックス2** 2月24日(金)、横浜中央Yのチャペルにて、横浜ワイズメンズクラブと横浜YMCA学院専門学校共催の第4回日本語スピーチコンテストが開催されました。出場者は7か国10名で、それぞれ5分間のスピーチを、前後半に分けて行いました。最優秀は、ネパールからの留学生の「夢の山」と題するスピーチで、日本のような幼稚園をネパールに作りたいとの思いを熱く語ってくれました。日本滞在、僅か11か月(自国で2年間日本語を学ぶ)にもかかわらず、スピーチはもとより、ジャッジの質問への受け答えも大変立派で、筆者がフランス語圏で過ごした年月は、いったい何だったのかと秘かに反省した次第です。素晴らしプログラムが今後も続きますよう。(TI)

≪編集後記≫  
 余りイベントの多  
 くない時期な  
 気の許しが多  
 思いのほかに  
 稿があり、か  
 れをとり、行  
 しに遅れて、  
 お詫び。読者  
 した。長い時  
 復され、ご自  
 今一つ、自分  
 のよりの感、  
 昔通り、お  
 はず「振りマ  
 いられたまし  
 配頂いた皆に  
 告たいました  
 リテナン行を  
 の月十発す  
 ば毎月五に  
 います。初め  
 (編集子)